

土砂災害の知られざるリスク

- 平成30年7月西日本豪雨の教訓 -

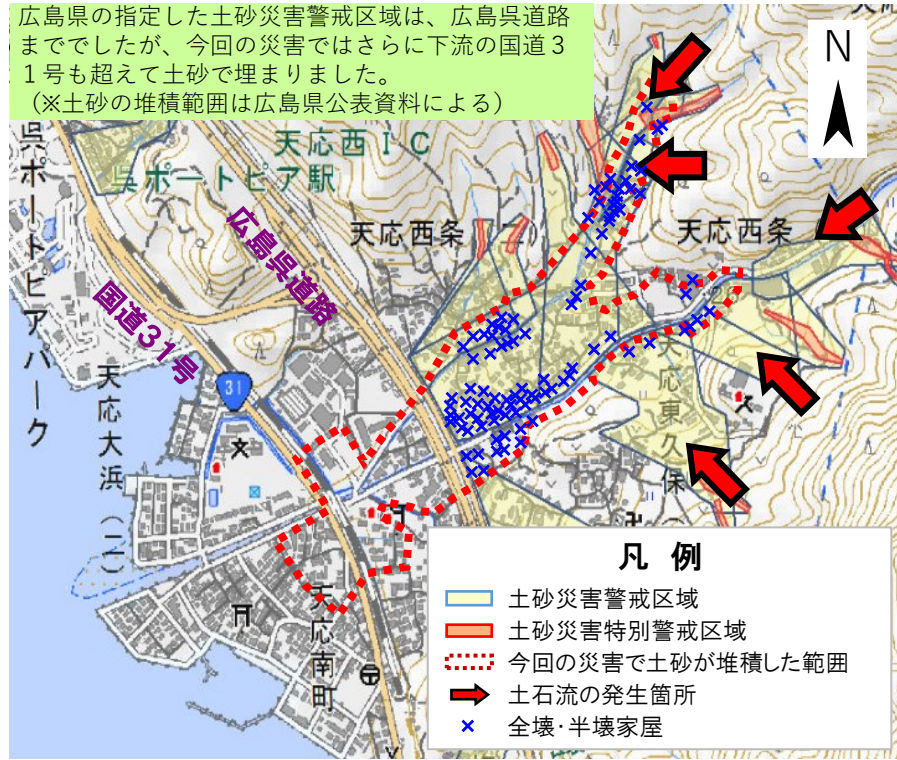
土砂災害のうち土石流による災害では、土砂災害警戒区域ではない場所にも水と砂が運ばれて、家が砂に埋まるなど被害が広がりました。このように、土砂災害ではハザードマップで示されている範囲外でも警戒が必要です。

1. 平成30年7月豪雨 呉市天応地区での被災状況

平成30年7月豪雨で被災した呉市の天応地区では、平成24年に広島県から指定されていた土砂災害警戒区域を超え、溪流の下流域で広く土砂災害が発生しました。

これは、家屋を倒壊させる巨石などが含まれる「土石流」に加えて、水に土砂が混ざった「土砂流」が大量に流れ出し、河川や道路などを下って広がったためと考えられます。さらに、河川に架かっている橋に流木や巨石、場所によっては車がひっかかり、そこで土砂があふれて被害を大きくした箇所もありました。

また、想定されていた土砂災害の特別警戒区域(レッド)を超える範囲で全壊・大規模損壊・半壊家屋が多数発生し、甚大な被害を発生させました。



平成30年7月豪雨による呉市天応地区での被災地図

2. 土砂災害警戒区域に含まれていない場所でも要注意

平成30年7月豪雨の災害で、呉市天応地区では、土石流が到達しないとされる範囲でも、大雨によって崩れた土砂が流れ出し、家が土砂で埋まりました。土砂は家の外を埋めるだけでなく、窓ガラスを破って家の中まで流れ込み、人命を奪いかねない被害を発生させています。

自宅や職場などが警戒区域に入っていない場合でも、上流に危険な溪流がある河川や大きな道路の近くで土砂が流れ込んでくるような場所がないか確認し、危険性があれば早めに避難することが大切です。



呉市天応西条で土砂に埋まった家屋や自動車